

平成30年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」・「読み解く力」における平均正答率の比較

葛西中学校

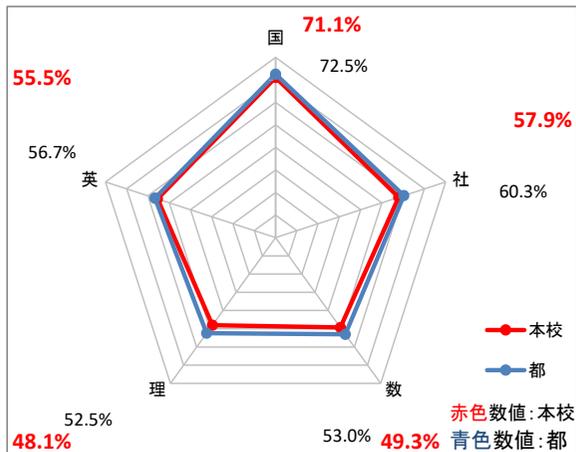
国語	教科の観点						読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	92.5%	68.1%	78.0%	70.5%	70.1%	73.2%	85.8%	64.2%	62.4%	69.2%	72.5%
本校	89.7%	63.1%	70.6%	65.2%	76.0%	72.6%	81.4%	56.4%	56.9%	62.7%	71.1%
都との差	-2.8	-5.0	-7.4	-5.3	5.9	-0.6	-4.4	-7.8	-5.5	-6.5	-1.4

社会	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	94.4%	59.9%	57.6%	62.0%	62.9%	62.9%	42.9%	46.8%	50.9%	60.3%
本校	94.1%	61.2%	56.2%	58.1%	61.4%	59.8%	35.3%	40.7%	45.3%	57.9%
都との差	-0.3	1.3	-1.4	-3.9	-1.5	-3.1	-7.6	-6.1	-5.6	-2.4

数学	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	77.6%	41.6%	53.9%	58.8%	55.6%	49.6%	49.3%	35.4%	45.4%	53.0%
本校	73.8%	32.7%	51.3%	55.3%	51.7%	40.5%	46.6%	39.3%	41.9%	49.3%
都との差	-3.8	-8.9	-2.6	-3.5	-3.9	-9.1	-2.7	3.9	-3.5	-3.7

理科	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	86.7%	45.7%	61.4%	46.8%	53.4%	78.7%	49.8%	19.5%	49.4%	52.5%
本校	86.4%	39.4%	54.1%	46.0%	50.0%	68.4%	39.8%	17.5%	41.9%	48.1%
都との差	-0.3	-6.3	-7.3	-0.8	-3.4	-10.3	-10.0	-2.0	-7.5	-4.4

英語	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	82.6%	31.7%	69.5%	59.3%	60.2%	45.2%	52.9%	37.4%	45.2%	56.7%
本校	84.0%	41.7%	64.2%	55.5%	59.1%	41.7%	53.9%	35.0%	43.5%	55.5%
都との差	1.4	10.0	-5.3	-3.8	-1.1	-3.5	1.0	-2.4	-1.7	-1.2



《都との比較にみる本校の状況》

＜観点別の都平均・区平均との比較＞

(観点・読み解く力の数字は上記左から1～5とした)

○都平均より上位の項目は、国語5、社会2、数学読み解く力3、英語1、2、読み解く力2である。区平均より上位の項目は、社会3、数学3、4、読み解く力2、理科4である。

●都平均から5ポイント以上低い重点課題とする項目は、国語3、4、読み取る力2、3、社会読み取る力2、3、数学2、読み取る力1、理科2、3、読み取る力1、2、英語3である。

＜学力の4分層分布＞

(A層が都最上位層25%の得点にあたる本校での人数割合で、25%以上いれば、都平均より上位といえる。D層はその逆に25%より少ないほうが上位)

○国語：A層が28.4%で昨年度より5.9ポイント増加した。D層は28.4%で昨年度より1.6ポイント減少した。社会：A層が26.5%で昨年度より6.8ポイント減少した。D層は27.5%で昨年度より9.2ポイント増加した。数学：A層が26.2%で昨年度より4.6ポイント増加した。D層は30.1%で昨年度より13.6ポイント増加した。理科：A層が24.3%で昨年度より5.5ポイント増加した。D層は39.8%で昨年度より11.2ポイント増加した。英語：A層が31.1%で昨年度より12.3ポイント増加した。D層は26.2%で昨年度より3.4ポイント減少した。

二極化のみられる教科が多いことが分かる。

《授業改善のポイント》

- 国語：書く能力を向上させるために作品ごとに自分の考えをまとめ、意見交流する場を増やす。新聞記事や資料などをもとに要約や資料の読み取りの機会を設ける。
- 社会：授業の導入や授業中に、なぜ、どのようにという疑問をもたせ、自ら追究する課題を設定していく。
- 数学：知識・理解・技能を高めるため、一層の机間指導を充実する。数学的な見方・考え方を高めるため、応用問題に積極的に取り組む。
- 理科：実験・観察の方法、結果からの考察等、自ら考え、その後グループ内で話し合い活動を行っていく。理由を考えさせることで、知識の定着へとつなげていく。
- 英語：英語長文から必要な情報を取り出すことについては、まとまった長文を読んで問題を解く機会を増やす。

《家庭・地域への働きかけ》

- 国語：週一回、漢字の練習を課しています。継続することで、部首や音訓の理解も深まります。定期的に漢字50問テストを実施しているので、家庭学習への声掛けをお願いします。
- 社会：授業毎に小テストを実施しているため、必ず家庭で復習をすることの声掛けをお願いします。
- 数学：週一回の課題で家庭学習を促進しています。
- 理科：主に、定期考査前に家庭学習の充実をお願いします。
- 英文書写、単語調べ、ワークブックなどの宿題や定期的に単語テストを行っています。家庭学習への声掛けをお願いします。